

火山防災マップのちがい

想定している噴火規模のちがい

新潟焼山では、様々な規模の噴火をしてきました。このため将来の噴火規模を現時点で予測することは不可能です。

このため、今回の防災マップでは、中規模噴火を想定しました。以前にお配りした「新潟焼山火山防災の心得」は、大規模噴火を想定したのですが、中規模噴火でも大きな被害が予想され、発生する確率は大規模噴火より高くなります。

想定している火山現象のちがい

以前お配りした「新潟焼山火山防災の心得」では、主に火砕流の災害範囲について書いていました。

今回のマップでは、

- ・火砕流
- ・火砕流の熱風部
- ・融雪型火山泥流
- ・火山灰、噴石
- ・噴火後の土石流



の災害範囲について書いてあります。

災害範囲の考え方のちがい

災害範囲の考え方には概ね二通りあります。一つは過去の災害範囲を示した実績図、もう一つは将来の災害範囲をシミュレーション計算などにより予想する、想定図です。

「新潟焼山火山防災の心得」は、実績図であり、
「新潟焼山火山防災マップ」は、想定図になります。



- ・平成13年配布
- ・大規模噴火を想定
- ・火砕流が主題
- ・実績図



- ・平成16年配布
- ・中規模噴火を想定
- ・様々な現象を記載
- ・想定図